

銀座街づくり会議報告会

コロナ禍における銀座の状況 + デザインレビュー 2020 - 2021

6月24日、オンラインにて2019・2020年の銀座街づくり会議の活動報告会を開催しました。昨年はコロナ禍で中止のため、2019年から2年ぶりの開催になりました。主な内容は、1. 2019・2020年の活動報告、2. 銀座デザイン協議会デザインレビュー、「銀座

デザインルール」第3版について、3. 世界の事例と銀座、の3つです。齋藤充代表幹事の挨拶に始まり、小林博人さん（慶應義塾大学大学院教授）、中島直人さん（東京大学大学院准教授）、石山さつきさん（日仏都市研究者）にお話をいただきました。

2019・2020年の活動報告

附置義務駐車場（一般車両・荷捌き・身障者用）に対する取り組みとして、2021年4月中央区に対して意見書を提出しました。さらにKK線再整備については、歴史の積層を生かした立体的な空間形成や文化と共創する空間を目指すことなどを盛り込んだパブリックコメントを2021年3月に提出しました。

デザインレビュー 2020・2021

銀座デザイン協議会の協議件数は、2019年が261件、2020年は194件でした。協議件数の6割を超える広告デザインでは、知名度の高い人物によるアピール、人の目力に頼る表現、ヒューマンスケールを大きく超えた人物や商品のデザインが以前から問題になっています。訴求力が高い一方で、建築の連なりという風景からの視点では、大きな違和感があります。訴求力を担保しながら街並みとのバランスの折り合いをつけていくことは、今後もデザイン協議のテーマです。

2021年2月、「銀座デザインルール」を10年ぶりに再編しました。従来の街並みのデザインに加えて街づくりのデザインも詳細に記載しています。

世界の事例と銀座

石山さんからフランス・パリ市の今の状況をお話いただきました。パリの商工会議所とパリ市の都市計画事務所の共同調査（2020.10）によれば、商業店舗の96%が1階の路面店であること、そして97%が300㎡未満（平均50㎡）の商店だという調査結果が出ています。さらに歩道を利用する飲食店のでテラス

などが連なり魅力的な沿道を形成していることがパリの特徴です。また昨今は、環境配慮と消費者意識の高まりからBIO（無農薬栽培）を扱う店舗が増加する一方で、オンライン販売、デジタル化の影響を受けて衣料関連、旅行代理店、銀行支店などは減少傾向にあるようです。

交通分野では、歩行者空間の広がりが加速し、道路の低速度化をパリ市全域に拡大する動きが高まっています。一方でキックボードなどのマイクロモビリティによるシェアサービスが急速に浸透し、走行マナーや乗り捨てによる歩道環境の悪化が問題になりました。1年ほどで法整備が整い、今では歩行者や多様なモビリティが共存する快適な街路環境実現に向かっているようです。石山さんは、「パリの街は歩きやすく小さな商業が点在している。そのなかで、歴史的な街並みや営みのストックを基盤として、生活している人たちが積極的に環境のことを意識している」とまとめられました。

小林さんは、「日本でも車ではなく歩く人のための法律をもっと考えるべきだ」とコメントされました。そして中島さんは、街路空間の活用では東京が世界から大きく後れを取っていることを指摘され、「銀座が先を走って街路の使い方についていろいろな提案や実験をしていくのが良い」と期待を込められました。

「次の世代に引き継いだときにも古さを感じないように街づくりに取り組んでいきたい」と、最後に東條委員長（全銀座会街づくり委員会）は締めくくり、閉会しました。